

道徳だより



家庭と学校
力を合わせて

テーマ 分けへだてなく（公正，公平，社会正義）
『いじりといじめ』（4年生）

あらすじと学習の流れ

授業でまさる君が間違った答えを言い、その間違いがおもしろかったので、みんなが笑った。人の間違いを笑うことはいじめである考えと相手が気にしていないからいじりである考えが出て、主人公のゆうきはいじりといじめの違いについて考え始めるきっかけとなる。

この例をもとに、おもしろかったら失敗を笑ってもいいのか、相手が気にしている様子がなかったら笑ってよいのか、冗談で済ませてよいのか考えながら、「いじり」が「いじめ」につながることに気付かせたい。

児童のふり返り

- 相手が傷つくような言葉は使わないようにしていきたい
- どんな人に対しても同じ態度で接したい
- 相手が笑っていても、心の中では傷ついているかもしれないので、いじりはしてはいけない
- いじりはいじめにつながることもあるので、態度に気をつけていきたい



担任より

中学年の子どもは、仲間集団を作り、仲間との関わりが深くなってきます。そのため、仲間内で盛り上がりやすくなることもあります。しかし、一方で相手に対して親しみをあらわしたり、場の雰囲気をもたげたりするつもりでのからかいや、容姿や失敗を笑ったりする「いじり」をしてしまうことも事実です。

これは、「いじり」がコミュニケーションの一環であると認識していたり、自分の勝手な認識で相手に不公平な接し方になっていることまで思いが至らないのだと考えられます。そこで、「いじり」と「いじめ」の違いや共通点について考えさせ、不公平な態度が相手を傷つける行為であることに気づき、相手が誰であっても丁寧に接する心が育つといいですね。クラスのルールでも相手によって態度をかえないというものがあるので、全員がしっかり守っていけるといいですね。